

# 静電容量型力覚センサ付属アプリ 簡易オシロスコープ操作説明書

株式会社ワコーテック  
2011 年  
Ver.3.0

## 1、準備

( 1 ) 力覚センサ付属 CD-R の USB ドライバ( Driver フォルダの VCP\_v4.40 for Windows ) をインストールします。

詳細はドライバの説明書をご参照願います。

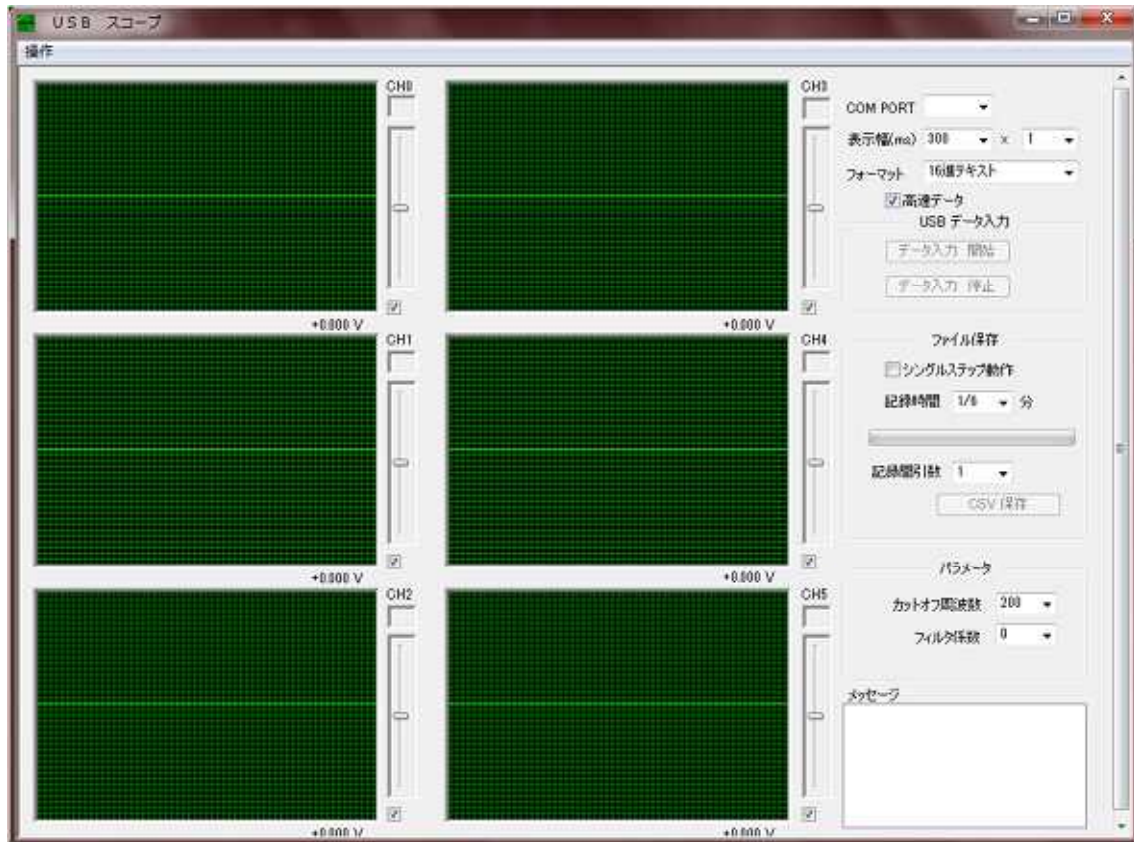
**注) 仮想 COM ポートドライバをインストールする際は、モジュールを P C に差し込む前にドライバをインストールしてください。**

( 2 ) オシロ表示アプリ： USBOSC(16T) .exe を適当なフォルダにコピーします。

( 3 ) パソコンの USB ポートに力覚センサを接続します。

## 2、基本操作

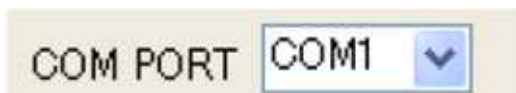
- ( 1 ) パソコンの USB ポートに力覚センサを接続します。
- ( 2 ) USBOSC(16T).exe を起動します。



表示画面の見方

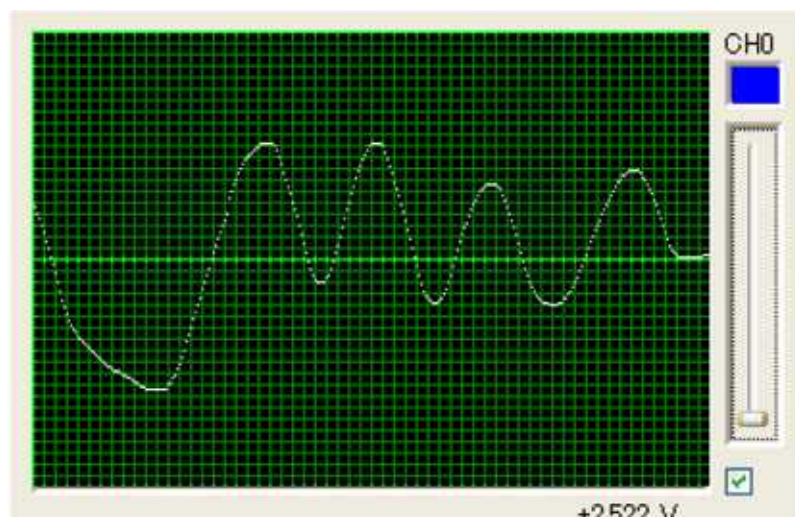
- ・ CH0 = Fx CH1 = Fy CH2 = Fz CH3=Mx CH4=My CH5=Mz を表してます。

- ( 3 ) COM ポートを接続します。どのポート番号が割り当てられているか不明の場合には、「設定」「コントロールパネル」「システム」「ハードウェア」「デバイスマネージャ」のポート の内容を確認します。



例として COM1 を選択してます。

( 4 ) 「データ入力開始」ボタンを押すと表示が開始されます。



( 5 ) 各チャンネルの横軸の幅は 300 ~ 3000ms となっています。時間軸の 1 ピクセルが 1ms に相当しています。ただし、正確にはこれを 1.11 倍した値となりますので、そのようにお読み変え願います。( 例 : 300ms ... 333ms )



( 6 ) 「データ入力停止」ボタンを押すと表示が停止されます。



( 8 ) データを CSV ファイルに記録する場合には、「シングルステップ動作」を ON にしてから、「データ入力開始」ボタンを押します。このとき、記録時間を指定しておきます。記録完了したらそこでデータ入力が自動的に停止します。



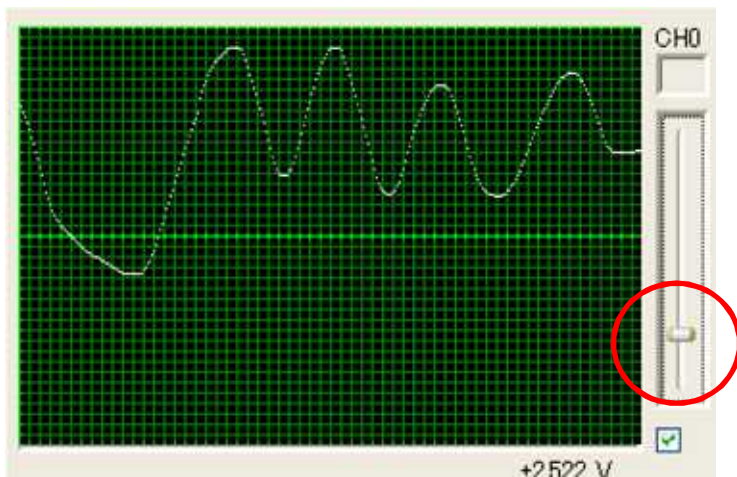
( 9 ) 必要に応じて、ソフト LPF のパラメータとして、カットオフ周波数とフィルタ次数を設定します。LPF をかけないときは次数を 0 とします。  
通常は、ボード側で、3 次 200Hz の LPF がかけられているため不要です。



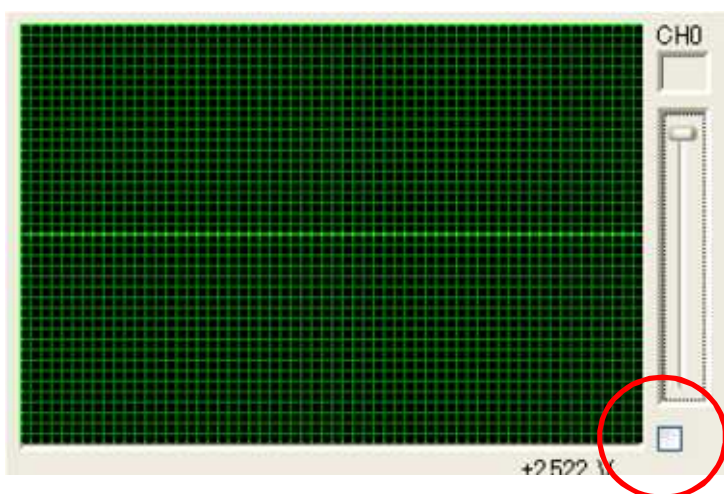
( 10 ) 記録されたデータをファイルに保存するときは、「CSV 保存」ボタンを押します。保存先とファイル名はこのとき指定します。ここで、記録はメモリ上に行われますので、「CSV 保存」ボタンを押さないとファイルには保存されませんのでご注意願います。



( 1 1 ) オシロ画面右側のスライダーでオフセット位置を調整できます。



( 1 2 ) オシロ画面右下のチェックを外すと非表示となります。



#### 4、制限事項

( 1 ) パソコンの動作条件は次のとおりです。

OS : WindowsXP / 2000/ 7(32bit)

CPU : PentiumIII 相当、900MHz 以上

メモリ : 3MB 以上

( 2 ) 表示中に力覚センサから出ている USB ケーブルを外すと、それ以降のデータが正常に受信できなくなります。その場合は、次の手順で回復します。

USB ケーブルを接続。

USBOSC-6.exe を起動しなおす。

## 5、その他

総合窓口：株式会社ワコーテック

〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町 4-241-2 山崎第二ビル 6F

TEL 048-641-8807 FAX 048-641-9996

担当：鈴木 mail：s.nob@wacoh-tech.com